

活動例 11 [生活 規範意識] 5歳児 2学期

『リレー』

育てたい力

- ・友達よさに気づき、認めたり受け入れたりする力
- ・お互いの考えや感じたことを伝え合って、遊び方を工夫しながら、自分たちで遊びを進めていくことができる力

経験させたい内容

- ・リレーを楽しみながら、自分の力を十分に発揮して遊ぶ。
- ・自分の考えを友達に伝えたり、相手の考えを聞いたりして、状況に応じてどうしたらうまくいくかを考え楽しく遊びを進める。
- ・友達の思いや優しさに気づき、受け入れたり認め合ったりする。

5歳児10月 事例

【クラスの実態】

男児 13 名、女児 16 名、計 29 名 自分の思いや考えを言葉にして主張する幼児が少ないクラスだったが、運動会を経験して自信をつけると、自分の意見を主張したり、友達と衝突したりするようになってきている。友達と遊びを進めていくために、友達の意見を受け止めたり、折り合いをつけたりしながら遊ぶようになる姿が見られるようになってきている。

【活動の流れ】

9 月、幼稚園の運動会に向けて、昨年度の年長児に憧れ「リレーをやろう」と取り組み始める。9 月下旬頃から小学校の運動会を見に行く幼児が増えると、小学生が走る姿を見て刺激を受け、真似をして走ってみようとするようになる。運動会では、チーム意識も高まり「こうやって走ると速く走れるよ。」と教え合ったり応援し合ったりしながら、チームの友達と力を合わせて走る楽しさを味わっていた。その後、運動会の再現遊びでは、仲間を集めてリレー遊びに参加する幼児が増えていった。

【指導や環境の工夫】

- ・互いの気持ちを出し合い、思いや考えの違いや共通点に気づき、一緒に遊びを進めていくためにはどうしたらいいかを幼児なりに模索したり葛藤を乗り越えたりしていけるような環境や援助が大切である。
- ・遊びを自分たちで進められるように、一人一人の長所を認めたり、思いを受け止めたりして、個々の幼児の気持ちや考えがお互いに言葉で伝わり合うように媒介となって気付かせ、遊びを楽しめるように援助していく。

【エピソード】『前もかわってくれたから』

【記録前の様子】 M児達4人がリレーをやろうと準備し始めると、次々にメンバーが増え10名になる。チーム分けが決まったところで、各々のチームに分かれて走る順番を相談することになる。

『前もかわってくれたから』 「アンカーやりたい」とR児が言うと、同じチームのS児とY児とK児も「やりたい！」と主張し始める。R児とY児が「俺やる。速いよ。」と言うと、K児が「私も速いよ。運動会の時、リレーで1位になったんだよ。」と言う。S児が「R君たち、速いもんな〜。何人も抜かしたの見たことあるもん。僕、アンカーやったことないからやってみたいな。勝ちたいけどさ〜。」と言う。教員は、「S君は、R君たちが走るところよく見ていたね。S君もアンカーやりたいんだね。」と言葉をかける。しばらくすると、他チームから、「ねえ、決まった!?!」「速くリレーしようよ。もう片付けの時間になっちゃうよ。」と催促される。すると、R児が「何回もアンカーやったことあるから誰かやってもいいよ!」と言うと、K児が「私も、アンカーやったことあるからいいよ。」と譲り始める。Y児が「じゃあ、僕、やる!」と繰り返し言い始めたので、教員が、「Y君はそう言っているけれどS君はそれでいいの?」と聞くと、S児は「僕やりたい。」と言う。決めずにいる2人を見て、他チームのM児が、「2回戦目もやればいいじゃん。」と言い始めると、S児が「そっか、何回もやれば、みんなができるんだ。」と気付く。S児は、「Y君、どうしてもやりたかったらやってもいいよ。でも次、僕にやらせてね。」と言う。S児の言葉を受けて、Y児も「やっぱいいよ。S君やったことないんだしたら、先にやってもいいよ。前もかわってくれたから。」と譲る言葉を返した。

チームで話し合う時にS児はいつも友達に譲ってきたところがあり、その一方で、Y児は「やりたい」という気持ちになった時には譲ることができずに、他児が折れるのを待つところがあった。だが、S児のよさを感じて自分から気持ちを調整して友達と遊びを進めていこうとする姿が見られたため、教員は、「じゃあ、まだ、アンカーを1回もやったことがないS君が1回戦目はやってみる?Y君もそう言ってくれているから。」と提案したことで、他児も賛成しS児がアンカーをやることになった。

【その後】 繰り返し遊びを進めていく中で、チームの友達と一緒に走ることを楽しめるようになり、走る順番だけにこだわらずにチームのために自分の力を発揮して遊びを進めていく姿が見られるようになった。



予想される活動例

- ・お店ごっこ ・ドッジボール ・誕生会の出し物
- ・楽しみ会の出し物 ・生活発表会の出し物

【小学校への学び】

- ・相手の気持ちを感じ取ったり、状況に応じて自分たちで遊び方を考えたりルールを変えたりして楽しく遊びを進められることは、友達と一緒に気持ちよく集団生活を送ることができる基礎となっていく。